

令和5年度 小中合同研修会まとめ

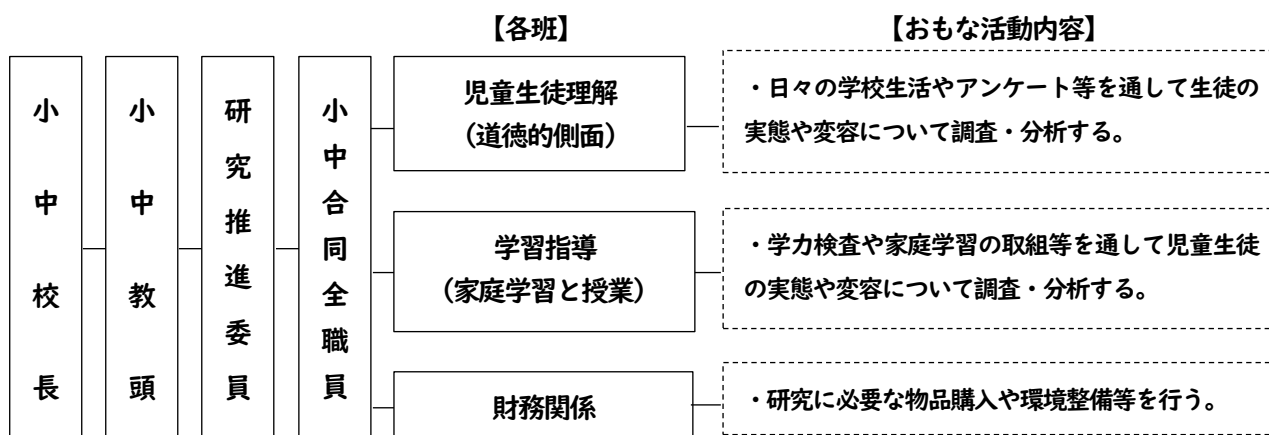
吉田北中・吉田小 研修係

1 令和5年度担当校 吉田小学校

2 小中合同研修研究主題

一人一人に確かな学力をつけるための教育活動の実践
 ～GIGA スクール構想の実現に向けた小中連携の在り方について～

3 小中合同研修組織



・各班のメンバー

○ 児童生徒理解【顧問：校長（吉田小学校），教頭（吉田北中学校）】

小学校 [6名]

中学校 [5名]

○ 学習指導【顧問：校長（吉田北中学校），教頭（吉田小学校）】

小学校 [4名]

中学校 [5名]

○ 財務関係

小学校事務担当 中学校事務担当

4 研修の実際

	月日	形態	研修内容
1	4/12(水)	合同研修①	今年度の研究テーマの確認
2	5/29(月)～6/2(金)	小中連携授業参観週間	小学校が中学校を参観
3	8/1(火)	合同研修②	研究テーマの確認（中間）学力・学習状況に関する情報交換
4	10/30(火)～11/2(木)	小中連携授業参観週間	「かごしまの教育」県民週間で小中相互に実施
5	11/14(火)	研究授業	小学校研究公開「教育の情報化」への参加
6	1/9(火)～1/19(金)	小中連携授業参観週間	中学校が小学校を参観
7	2/14(水)	合同研修③	今年度のまとめと次年度の研究テーマ構想

5 今年度の成果と課題等

【児童生徒理解班】

- ・ 小中交流タイムの時間が小学生にとっては楽しい時間となった。
- ・ 道徳の学習で礼儀について、その意義や大切さについて学ぶことができた。
- ・ 中学生が良く挨拶をしてくれている。それをお手本に、小学生も廊下ですれ違う時に立ち止まって挨拶する児童が増えてきた。校外学習に出かけても、自分から積極的に地域の方々に挨拶できる。「挨拶は何度やっても気持ちいい」を伝え続けたい。
- ・ 中学生はあいさつをする生徒が多い。
- ・ 児童・生徒への名前を呼んでの声かけ、あいさつを進めたことで子どもたちのあいさつがよくなった。
- ・ あいさつをしない、声が小さい生徒がいる。
- ・ 自ら進んであいさつはまだまだだと思うので、根気強く声かけをして気持ち良いあいさつの手本を見せていく必要がある。
- ・ おはようございます！という元気な声が聞こえてくるような指導を今後も継続したい。
- ・ 清掃活動だったり委員会活動だったりと言わず懸命にすることができるよう努めさせたい。
- ・ あいさつだけに限らず、様々なきまりやルールなどについても、「なぜ必要か」「何のためにするのか」を根気強く指導していく必要がある。小学校では、特に廊下歩行について継続的な指導が必要だと感じる。



小中合同職員研修の様子



研究授業（3年国語）の様子

【学習指導班】

- ・ 小学校でも授業開始時に昨年度から「黙想」を取り入れている。良い効果を生んでいる。
- ・ 授業の五原則はどの学年も守ることができている。
- ・ 小学校のICTを活用した研究授業、授業研究はとても参考になった。中学校でも効果的に活用していけたらよい。
- ・ 学習時間の確保ができていない。メディアの時間とのバランスがとれていないのではないかと感じる。
- ・ 課題の提出について、小学校と連携がとれる取組ができるとよい。
- ・ 家庭学習への取り組みが難しい。
- ・ テスト期間はノーメディアに挑戦しているが、設定目標は高くなく、土日に守れていないことが多い。
- ・ 「自分の考えを主体的に表現する」については安心して表現できる雰囲気为学校（学級）全体で作っていく必要がある。まずは私たち職員から。
- ・ 各種調査の結果を小中で共有して、つけるべき学力に対しての取組ができればよいと思う。
- ・ タブレットの活用と並行して、ノートの活用も疎かにならないように進めていきたい。
- ・ ノーメディア期間がマンネリ化することがないように方策を考えていきたい。
- ・ 家庭での学習時間の確保には個人差があり、家庭と連携が不十分であった。
- ・ 家庭学習の習慣化がなされず、宿題が未提出のまま日々を過ごす児童がいる。タブレットを持ち帰ると、それを使って学習とは関係ないことを行っている実態もある。家庭学習については、保護者にも現状を知ってもらい、連携して継続指導していく必要がある。
- ・ 家庭学習の程度（量や質など）についても小中交流のよさを生かすことができれば、家庭学習における「中1ギャップ」を少なくすることができるのではないかと感じる。

【財務関係】

- ・ 小中連携での財務における課題があれば次年度は検討してもよいと思う。